



8:22 そのとき、イスラエル人はギデオンに言った。「あなたも、あなたのご子息も、あなたの孫も、私たちを治めてください。あなたが私たちをミデヤン人の手から救ったのですから。」

8:23 しかしギデオンは彼らに言った。「私はあなたがたを治めません。また、私の息子もあなたがたを治めません。主があなたがたを治められます。」

8:24 ついで、ギデオンは彼らに言った。「あなたがたに一つ、お願いしたい。ひとりひとり、自分の分捕り物の耳輪を私に下さい。」一殺された者たちはイシュマエル人であったので、金の耳輪をつけていたからである—

8:25 すると、彼らは「差し上げますとも」と答えて、一枚の上着を広げ、ひとりひとりその分捕り物の耳輪をその中に投げ込んだ。

8:26 ギデオンが願った金の耳輪の目方は金で一千七百シェケルであった。このほかに、三日月形の飾りや、垂れ飾りや、ミデヤンの王たちの着ていた赤紫の衣、またほかに、彼らのらくだの首の回りに掛けていた首飾りなどもあった。

8:27 ギデオンはそれで、一つのエポデを作り、彼の町のオフラにそれを置いた。すると、イスラエルはみな、それを慕って、そこで淫行を行った。それはギデオンとその一族にとつて、落とし穴となった。

8:28 こうしてミデヤン人はイスラエル人によって屈服させられ、二度とその頭を上げなかった。この国はギデオンの時代、四十年の間、穏やかであった。

8:29 ヨアシュの子エルバルは帰って自分の

家に住んだ。

8:30 ギデオンには彼から生まれた息子が七十人いた。彼には大ぜいの妻がいたからである。

8:31 シェケムにいたそばめもまた、彼にひとりの男の子を産んだ。そこで彼はアビメレクという名をつけた。

8:32 やがて、ヨアシュの子ギデオンは長寿を全うして死に、アビエゼル人のオフラにある父ヨアシュの墓に葬られた。

8:33 ギデオンが死ぬとすぐ、イスラエル人は再びバルを慕って淫行を行い、バル・ペリテを自分たちの神とした。

8:34 イスラエル人は、周囲のすべての敵から自分たちを救い出した彼らの神、主を心に留めなかった。

8:35 彼らは、エルバルすなわちギデオンがイスラエルに尽くした善意のすべてにふさわしい真実を、彼の家族に尽くさなかった。

ギデオンは統治者になるようにと要請されましたが、これを断りました。その代わりにエポデ（祭司の式服）を作りましたが、これが偶像になってしまいました。ギデオンの死後、イスラエルはまた神の御心から離れ、淫行を行うようになり、ギデオンの家族に不誠実になってしまいました。

ギデオンの「主があなたがたを治められます。」ということばは真理ではありませんが、しかし現実的ではありませんでした。すなわちイスラエルは主に治められることを好まなかったのです。ギデオンの謙遜はすばらしいものですが、一方霊的な状態を看破して自分の役割を果たすことも必要な場合があることをも忘れてはならないでしょう。

ギデオンが作ったエポデは神様によって命じら

れた善きものでありましたが、それがミデヤン人への勝利を記念するものであったなら、なおすばらしいものであるはずですが。しかしこれが偶像となり民の墮落のきっかけとなったのです。

どんなに良い起源があったとしても、それが神ご自身から離れてしまうなら、簡単に偶像となってしまおうという顕著な例です。それがイスラエルの霊的墮落を生み、ギデオンによってもたらされた信仰を忘れさせ、さらにはその家族への尊厳もなくなってしまったのでしよう。

神を第一にし中心にしないことが、すべての問題の原因になってゆくのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

